

エコパークゾーン周辺の環境づくり



博多湾にやって来る渡り鳥は、エコパークゾーンだけでなくその周辺も利用しています。

■名島地区

名島地区では、国指定天然記念物の帆柱石や名島城跡などの歴史遺産や周辺の自然環境と調和した、人に親まれる海岸づくり(護岸や遊歩道の整備、養浜など)を行っています。

整備にあたっては、NPOと共働して、満潮時に鳥が休むことができる休息場や干潮時に餌を採ることができる餌場を作りました。この休息場や餌場は、シギ・チドリ類やクロツラヘラサギが利用しています。

この取組に対し、生物多様性の保全に貢献しているとして、平成24年11月に世界自然保護基金(WWF)ジャパンより感謝状をいただきました。



(名島地区、多々良川河口域)

■多々良川河口域

多々良川河口域では、NPOによるクロツラヘラサギなどの休息場の管理や、河川利用者への啓発活動が行われており、カモ類やクロツラヘラサギなどの利用が見られています。



コラム 地域とNPOが主体となった環境保全への取り組み

名島海岸、多々良川河口域では、地域とNPOが主体となり、様々な環境保全への取り組みが行われています。ここでは、その取り組みについて紹介します。

■名島海岸
シギ・チドリ類の餌場となるアオサを残しながら海岸を清掃する試みがきっかけとなり、名島校区(帆柱町自治会)主体の清掃活動が行われています。清掃活動に参加された方からは、「近くで鳥が餌を食べていたり、飛んでいた姿を見ることができて、清掃にやりがいを感じた」などの感想が寄せられました。

■多々良川河口域
多々良川の生きものや植物の生態を守るため、NPOや地域、市民、企業などにより、毎月第4日曜の午後2時～4時に清掃活動と観察会が行われています。

写真提供:NPO法人 ふくおか湿地保全研究会